

男女共同参画社会を目指す

# 女性知事 リレーフォーラム in くまもと

地域からのチャレンジ ～少子化の流れを変えるために～



熊本市立田迎南小学校 2年生の子どもたち

平成15年8月1日(金) 13時開会

熊本県立劇場コンサートホール

主催：熊本県・千葉県・大阪府

後援：内閣府

# 御挨拶

未来社会からの預かりものである子どもたち。今日は、これからの少子化社会について語り合います。平成14年11月に千葉、大阪、熊本の3人の女性知事で放った「3本の矢と5つの提言」から8ヶ月。この間、新たに北海道において女性知事が誕生しました。

「変革と再構築」の時代にあって、様々な芽吹きが育まれ創造が行われる社会づくりを進めるためには、自治体自らが知恵と工夫、責任において地域実情をふまえた施策を展開していくとともに、様々な課題の解決に男女がともに参画していくことが必要です。

熊本、千葉、大阪と続くリレーフォーラムは、昨年からの女性知事連携を一過性に終わらせることなく、相互に刺激しあい、問題共有と情報交換をしながら、施策のレベルアップにつなげていくこと、そして21世紀にふさわしい成熟した真に豊かな社会をつくっていくために企画したものです。その第1回が、関係者の方々の御協力のもと、ここ熊本で開催できますことを大変嬉しく思います。

本日のテーマは、社会全体での対応が不可欠な「少子化問題」です。7月23日に少子化社会対策基本法が成立したところですが、このフォーラムがお集まりの皆様とともに少子化を考える機会となり、新たな発想や取組みへの一歩となることを願っています。熊本からの発信によって、全国各地での「安心して産み育て、子どもたちが生き生きと育つことのできる地域社会づくり」につながることを期待しております。

熊本県知事 潮谷義子

## ※「3本の矢と5つの提言」

昨年11月15日、3知事が集い、「食の安全安心の確保」や「きめ細かな子育て支援」、「生涯にわたる女性の健康支援」などに関する政策アピールと、小泉首相への提言を行いました。

# プログラム

13:00 開 会  
開会挨拶

潮谷義子 熊本県知事

13:05 メッセージ

坂東眞理子 内閣府男女共同参画局長

内閣府発足とともに初代男女共同参画局長に就任以来、わが国の男女共同参画社会づくりに関わってこられた坂東局長よりメッセージをいただきます。



坂東眞理子 (ばんどう・まりこ)

昭和44年総理府入府。青少年対策本部、婦人問題担当室、老人対策室、ハーバード大学客員研究員、内閣広報室参事官、統計局消費統計課長などを経て、平成6年男女共同参画室長、平成7年埼玉県副知事、平成10年ブリスベン総領事に就任。平成13年1月より現職。

## 13:20 基調講話

## 広岡守穂 中央大学法学部教授

少子化や子育ての現状、行政における取組みの方向について認識を深めるため、子育ての現場の声や事例などを交えながらお話しいただきます。



### 広岡守穂 (ひろおか・もりほ)

中央大学法学部教授。NPO推進ネット理事長、日本子どもNPOセンター専務理事。著書『男だって子育て』『「豊かさ」のパラドックス』『父親であることは哀しくも面白い』ほか多数。

## 13:50 “県民の声” 紹介 (映像)

県民が、少子化や子育てについてどのように考えているのか、いろいろな立場の方々へのインタビューを約10分間のビデオにまとめました。この後の「討論」への導入としてお送りします。

## 14:00 討 論

コーディネーター 広岡守穂 中央大学法学部教授  
出演 堂本暁子 千葉県知事  
太田房江 大阪府知事  
潮谷義子 熊本県知事

3人の女性知事が、「安心して産み育て、子どもたちがいきいきと育つことのできる地域社会」を目指して、少子化対策・子育て支援施策のあり方を熱く語ります。



### 堂本暁子 (どうもと・あきこ)

千葉県知事。昭和34年現在の東京放送(TBS)入社。昭和55年日本新聞協会賞などを受賞。平成元年参議院議員当選。平成9年世界自然保護連合副会長。平成11年地球環境国際議員連盟第5代世界総裁。平成13年4月より現職。



### 太田房江 (おおた・ふさえ)

大阪府知事。昭和50年通産省入省。大臣官房広報課長補佐や生活産業局産業課長などを経て、平成6年近畿通産局初の女性部長となる。平成9年岡山県副知事。通産省審議官から、平成12年2月、全国初の女性知事となる。



### 潮谷義子 (しおたに・よしこ)

熊本県知事。昭和37年佐賀県に社会福祉主事として入庁。大分県庁などを経て、昭和47年ケースワーカーとして熊本の乳児ホーム勤務。昭和59年園長に就任。平成11年、福祉の現場から熊本県副知事に。平成12年4月より現職。

## 15:40 閉 会

特集

少子化の流れを  
変えるために！

少子化が、急速に進んでいます。少子化は、これからの社会に大きな影響を与えます。今後、安心して生み育て、子どもたちが健やかに育っていくためには、子育てを家庭の中だけでなく、地域で協力し合い、社会全体で支援していくことが必要です。



Q.「少子化」って、どういうこと？



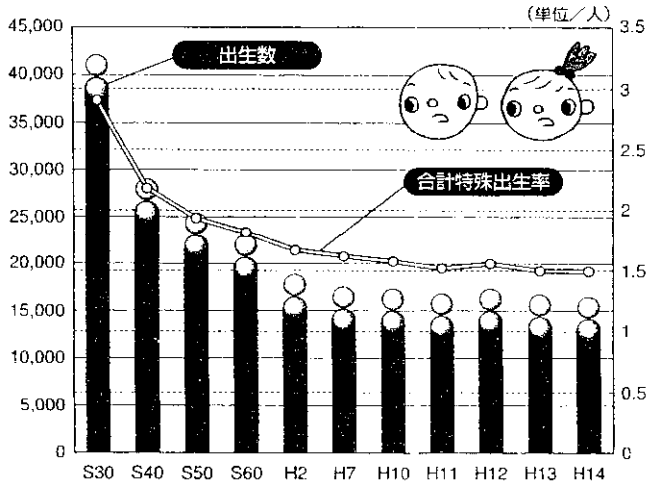
**A.** 日本における出生数は、年々減少し続け、合計特殊出生率<sup>\*</sup>も低下が続くなど、「少子化」が進行しています。少子化がこのまま進めば日本の人口は、100年後には現在の2分の1になると予測されています。

\*合計特殊出生率：一人の女性が一生の間に生む子どもの平均数



少子化の背景として、結婚観やライフスタイルの変化と併せ、子育てと仕事の両立の負担などがあり、生みたいと思う子どもの数と実際に生む子どもの数との間に大きなギャップが生じています。これからは生みたい人が生める環境をどう実現していくかが大きな課題です。

■熊本県の出生数、合計特殊出生率の推移



【少子化の主な影響】

- ① 子ども同士の交流の機会が減少し、子どもの健やかな成長に影響が出ます。
- ② 働き手が少なくなり、経済活動に活力がなくなります。
- ③ 年金や医療などの社会保障制度における負担が増大します。

Q.「少子化」への取り組みは？



**A.** 少子化は今後も進むと予測されています。そこで、子育て支援策などをさらに充実させるために「次世代育成支援対策推進法」が今年7月にできました。この法律は、平成16年度末までに県・市町村や、



企業などの事業主に対し、行動計画の作成を義務付けたもので、子育てしやすいまちづくりや働き方の見直しなどを旨とした行動計画に基づき、平成17年度から10年間、集中的に取り組むものです。

「次世代育成支援対策推進法」に基づく行動計画は、皆さんの意見を反映して作成します。

**国** 指針策定、計画に基づく取り組みの支援

**県・市町村** 地域での子育て支援などを内容とする行動計画の作成  
 (例) ●親と子どもが自由に集える場の設置  
 ●病後児保育の実施など

**企業** 働き方の見直しなどを内容とする行動計画の作成  
 (例) ●育児休暇取得率女性80% 男性10%を目指す  
 ●事業所内託児所の設置など  
 こんな会社で働きたい。

**住民** ①二一ズ調査・意識調査への協力  
 住民の二一ズや意識を正しく把握するための調査に協力をお願いします。

②行動計画作成に当たっての住民参加  
 住民のための行動計画となるよう、子育て支援の在り方など、県・市町村に意見を伝えてください。

育児休業をとれるように...  
 私たちにできることは何かしら  
 子どもの遊ぶ場所がほしいわ

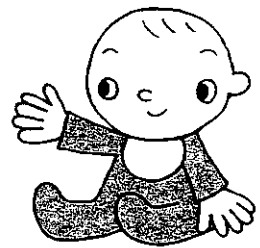


# Q.熊本県ではどのように取り組んでいるの？

## A.

熊本県では、平成13年に策定した「くまもと子ども未来プラン」に基づき、多様な保育サービスの充実や、地域を巻き込んでの子育て支援体制づくりなどに取り組んでいます。さらに、妊娠、出産から産後に至るまでの母親への連続したケアにも力を入れるなど、少子化対策のさらなる充実を図っています。

なお、県では、「次世代育成支援対策推進法」に基づき、平成16年度「くまもと子ども未来プラン」を県の行動計画として見直しを行い、さらに充実を図ることとしています。

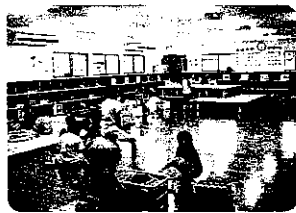


### 多様な保育サービス

子育てと仕事の両立を支援するため、次のような多様な保育サービスの充実を図っています。

◎保育所における延長保育、一時保育、休日保育などの特別保育事業

◎放課後児童クラブ(小学校低学年児童を中心とした放課後の子どもの健全な居場所づくり)や、病後児保育(病後回復期の子どもの一時的預かり) など



放課後児童クラブの様子

### 地域における子育て支援

行政、地域住民がパートナーシップのもとに、子育てへの不安解消・負担の軽減を図り、地域で子育てを支える仕組みづくりを進めています。

◎子育て中の親が気軽に集まれる場(地域子育て支援センター、つどいの広場など)の提供

◎地域での子育てのためのネットワークづくり、子育て支援コーディネーター・サークルリーダーなどの養成 など



つどいの広場の様子

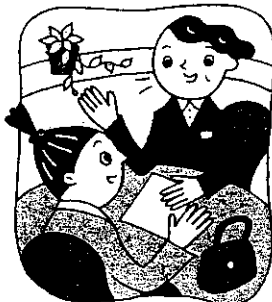
### 産前・産後の女性のケア

安心して子どもを生み育てることができるよう、妊娠中から産後における母親へのケアに取り組んでいます。

◎女性の心と妊娠にかかわる専門相談窓口の設置

県福祉総合相談所内  
☎096-381-4340

◎産後の育児不安などを早期に把握し、個別に支援する事業 など



### 少子化に関する啓発

「少子化の流れを変えるために」と題して、熊本県、千葉県、大阪府の3知事による「女性知事リレーフォーラムinくまもと」を8月1日に行いました。

潮谷知事は、「子育てするなら熊本県でと言っていたらいいよ、少子化対策、子育て支援の充実を一層図ってほしい」とフォーラムを締めくくりました。今後も少子化に関するイベントをはじめ、さまざまな形での啓発活動を展開していきます。



お問い合わせ先 熊本県子育て・介護支援推進課 ☎096-383-1111(内線7206) FAX096-381-9025  
電子メール kosodate@pref.kumamoto.lg.jp

子どもは未来社会からの預かりものであり、社会を映し出す合わせ鏡とも言えます。子どもたちの健やかで明るい声がいっまでも響き続けることを願い、皆さんと一緒に、社会的な縁による子育て支援を進めていきたいと、あらためて決意しています。

県では、少子社会に対応してきめ細かな子育て支援策を進めてきましたが、子育てを社会全体で支える方向などを示した新しい法律の制定を受けて、今後いっそう幅広い施策展開を行っていきたくと考えています。

ところが今、子どもの数が少なくなっています。と同時に、核家族化が進み、異世代や友達との触れ合い、地域でのつながりが薄れつつあります。そして、こうしたことが次世代の担い手たちの健やかな成長にさまざまな影響を及ぼしている現実があります。

いよいよ秋。澄み切った空の下で子どもたちが歓声を上げ、元気いっぱい校庭や公園を駆け回る姿が見られます。その姿は、生命力に満ちあふれ、周りの大人たちに元気を与えてくれる魔法の力を持っています。



熊本県知事 潮谷 義子

知事室から

## 次世代育成支援トップセミナー

「地方公共団体における次世代育成支援を考える～地域の子育て機能の再生を目指して～」

### 1 目的

少子化が急速に進行する中で、家庭や子育てに夢を持ち、次代の社会を担う子どもたちを安心して生み育てることのできる環境を整備することが急務となっています。

このような中、本年7月には「次世代育成支援対策推進法」が制定され、平成16年度末までに、すべての地方公共団体において「地域行動計画」を策定することとされています。

今後、住民に身近な立場にある地方公共団体が、この地域行動計画を策定していくためには、どのような視点で、どのような内容を盛り込んでいくべきかなど本行動計画のあり方について御議論いただき、次世代育成支援対策に関する機運の醸成を図ることを目的にトップセミナーを開催します。

2 主催 熊本県・熊本県教育委員会

3 後援 熊本県市長会・熊本県町村会・熊本県市議会議長会  
熊本県市町村議会議長会・熊本県市町村教育委員会連絡協議会

4 対象者 県内市町村長、県内市町村議会議長、県内市町村教育長 等

5 日時 平成15年11月21日(金) 14:00～16:15

6 場所 熊本テルサ 3F 大樹の間 (熊本水前寺公園28-51 TEL096-387-7777)

### 7 日程

13:30	14:00	14:10	14:50	15:00	16:15
受付	開会行事	基調講演	休憩	パネルディスカッション	

- 8 内容
- ①開会あいさつ 熊本県知事 潮谷 義子
  - ②基調講演 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課長 中村 吉夫 氏  
テーマ 「次世代育成支援において市町村に期待すること」
  - ③パネルディスカッション  
テーマ 「明日の次世代育成支援を考える」  
出演者 本渡市長 安田 公寛 氏  
大津町長 大村 直純 氏  
西合志町長 大住 清昭 氏  
坂本村教育長 鶴田 律子 氏  
アドバイザー 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課長 中村 吉夫 氏  
コーディネーター 熊本県立大学総合管理学部教授 米沢 和彦 氏